

-----  
2022年度 前期

1単位

英語論文作成ワークショップ

Brunelli Anthony  
-----

< 授業の方法 >

This class will be face-to-face.

< 授業の目的 >

This class will be taught in English and aims to help students develop good and proper academic writing skills. Students will learn various writing strategies and then use those strategies each week to write short papers on a variety of topics. In accordance with the DP of the Graduate School of Humanities and Sciences, the acquisition of these skills and knowledge will help students contribute to society with a rich cultural knowledge from a broad education.

< 到達目標 >

Through active learning, this class will focus on writing in English and will help students develop writing skills needed for success in academic writing.

< 授業のキーワード >

Academic writing, research writing, creative writing

< 授業の進め方 >

Students will be required to write short English papers each week following the information presented in class.

< 授業時間外に必要な学修 >

Weekly homework assignments will take roughly 1-2 hours per week.

< 成績評価方法・基準 >

Students will be graded as follows:

Writing assignments 50%

Participation 20%

Exam 30%

< テキスト >

The teacher will provide all necessary materials.

< 授業計画 >

Class Explanation The structure and style of the class will be presented

第2回

Writing a self-introduction Students will write a self-introduction in English

第3回

Topic sentences Students will learn how to write a good topic sentence

第4回

Topic sentence practice Students will practice writing topic sentences

第5回

Adding details Students will learn how to add details to a story

第6回

Explanation paragraphs Students will learn how to explain how or why something happens

第7回

Cause Students will learn how to explain cause of how or why something happens

第8回

Effect Students will learn how to explain the effects of something that has happened

第9回

Similarities Students will learn how to explain the similarities and differences between two or more people, places, things, or ideas

第10回

Differences Students will learn how to explain the similarities and differences between two or more people, places, things, or ideas

第11回

Sequence paragraphs Students will learn how to describe a series of events or a process in some sort of order.

第12回

Order Students will learn how to describe a series of events or a process in some sort of order.

第13回

Time Students will learn how to describe a series of events or a process based on time.

第14回

Putting it all together Pt 1 Students will learn how to combine all of the previous exercises

第15回

Putting it all together Pt 2 Students will learn how to combine all of the previous exercises  
-----

2022年度 後期

1単位

英語論文作成ワークショップ

Brunelli Anthony  
-----

< 授業の方法 >

This class will be face-to-face.

< 授業の目的 >

This class will be taught in English and aims to help students develop good and proper academic writing skills.

ing skills. Students will learn various writing strategies and then use those strategies each week to write short papers on a variety of topics. In accordance with the DP of the Graduate School of Humanities and Sciences, the acquisition of these skills and knowledge will help students contribute to society with a rich cultural knowledge from a broad education.

<到達目標>

Through active learning, this class will focus on writing in English and will help students develop writing skills needed for success in academic writing.

<授業のキーワード>

Academic writing, research writing, creative writing

<授業の進め方>

Students will be required to write short English papers each week following the information presented in class.

<授業時間外に必要な学修>

Weekly homework assignments will take roughly 1-2 hours per week.

<成績評価方法・基準>

Students will be graded as follows:

Writing assignments 50%

Participation 20%

Exam 30%

<テキスト>

The teacher will provide all necessary materials.

<授業計画>

Introduction The structure and style of the class will be presented

第2回

The basics of academic writing Writing good topic sentences and paragraphs

第3回

Details and supporting ideas How to develop your main ideas

第4回

Your ideas and opinions Why ideas and opinions matter

第5回

Gathering ideas before writing How to get organized before writing

第6回

Setting a scene Describing a place

第7回

Describing a picture Writing about a picture

第8回

Time-Order Practice using time-order words

第9回

Describing a place Writing about an observation

第10回

The purpose and structure of a research paper Understanding the organization of a research paper

第11回

Choosing the correct topic How to keep your topic narrow for clarity

第12回

The structure of content and ideas The importance of an outline

第13回

Introductions and conclusions Understanding the relationship between the introduction and the conclusion

第14回

Writing the first draft The importance of a first draft

第15回

The abstract Understanding the academic research paper abstract

-----  
2022年度 後期

1単位

芸術文化論ワークショップ

宇野 文夫

-----  
<授業の方法>

演習(対面授業)。

<授業の目的>

<主題>

演奏会について考える。

<目的>

クラシック音楽系の芸術音楽の演奏会の実態を多面的に捉え、現在営まれている音楽会というものと、その意義や意味を考察する。

チラシや雑誌広告、インターネットといったメディアに載せられた音楽会情報から、我々の読取ることの出来る事項は、どのようなものか。自ら選択した演奏会を実際に聴取体験し、何をすることができるのか。

こういった思考活動と実体験を通じて、芸術や芸術活動というものを深く捉え直す。

更に、人間文化学研究所のDPに則り、文化に関する豊かな学識と幅広い教養をもって地域社会と文化の発展に貢献し、さまざまな実践現場で中核的・指導的役割を担うことができるようになる。

担当教員は、中学校教諭(音楽)、音楽専門誌への音楽評論、及び作編曲といった実務経験のある教員である。

これらの経験を柔軟に活かし、音楽に対し知識や経験の少ない一般学生に対しては極めて解り易く講じ、既に専門的な知識や経験を有する学生には更に高度な教育が可能である。

<到達目標>

メディアや社会と芸術や芸術活動との関係を把握し、深く考察することができるようになる。

<授業のキーワード>

芸術と社会、芸術とメディア、芸術の存在意義

<授業の進め方>

調査発表と音楽の鑑賞。そして討議と考察。

<履修するにあたって>

予備知識や予めの興味の深浅は問いません。授業内容の細部は、履修者の実情に応じて変化します。

<授業時間外に必要な学修>

1週間に2時間ほど。

<提出課題など>

演奏会に関連したレポート、調査発表内容のまとめ

<成績評価方法・基準>

授業に於ける積極的参加度と、調査発表内容のレベル。発表に対しては、常にレスポンスを行います。

<授業計画>

授業概要の説明と自己紹介 授業の概要の説明と、担当者、履修者の自己紹介、授業への興味などを述べ、授業内容の方向性を確認する。

第2回

演奏会情報 チラシ、雑誌、インターネットから演奏会の情報を取り上げ、情報から読み取れる様々な事柄を考察し判断する。自ら聴きに行く演奏会を選択する。

第3回

演奏会に向けての準備1 聴きに行く演奏会について、事前準備を行う。主として曲目に関して調査し、考察する。

第4回

演奏会に向けての準備2 聴きに行く演奏会について、事前準備を行う。主として演奏者について調査し、考察する。

第5回

演奏会に向けての準備3 聴きに行く演奏会について、事前準備を行う。主として演奏会場について調査し、考察する。

第6回

演奏会に向けての準備4 聴きに行く演奏会について、事前準備を行う。曲目に挙げられている作品について、研究する。

第7回

演奏会に向けての準備5 聴きに行く演奏会について、事前準備を行う。曲目に挙げられている作品について、

研究する。

第8回

演奏会体験レポート1 演奏会を体験する。複数のものに出向き、可能であれば、その内のひとつは参加者全員で行って聴取する。授業では、逐一聴取演奏会の報告を行う。

第9回

演奏会体験レポート2 演奏会を体験する。複数のものに出向き、可能であれば、その内のひとつは参加者全員で行って聴取する。授業では、逐一聴取演奏会の報告を行う。

第10回

演奏会体験レポート3 演奏会を体験する。複数のものに出向き、可能であれば、その内のひとつは参加者全員で行って聴取する。授業では、逐一聴取演奏会の報告を行う。

第11回

演奏会の報告と考察1 芸術表現と情報、そして情報を通じたコミュニケーションについて各々の考えを発表する。

第12回

演奏会の報告と考察2 芸術表現と情報、そして情報を通じたコミュニケーションについて各々の考えを発表する。

第13回

演奏会の報告と考察3 芸術表現と情報、そして情報を通じたコミュニケーションについて各々の考えを発表する。

第14回

演奏会についての総括1 授業を通して浮かび上がってくる、芸術表現を巡る様々な課題や問題を捉え考察する。

第15回

演奏会についての総括2 芸術表現を巡る様々な課題や問題の考察から、今日における芸術と情報、そしてそれらと人間の関係について考察する。

-----  
2022年度 後期

1単位

言語文化論ワークショップ

野田 春美  
-----

<授業の方法>

実習

<授業の目的>

この科目は、研究科修士課程のDPに示されている、「専門領域において十分な知識と技能を蓄積し、それを学問上の研究課題や実社会の諸問題に対して的確に応用することができる」ことを目的とする。

具体的には文章表現のトレーニングを行い、論理的文章を読みやすく書くことを学ぶ。

<到達目標>

1 自分の考えを人に伝えるというのはどういうことか、構成を整え、読みやすい流れを作るというのはどういうことかを知り、説明できる。

2 明晰で論理的な文章を書くことができる。

<授業の進め方>

文章の執筆と、相互コメント・推敲を中心として進める。

<履修するにあたって>

(1)このワークショップは、大学院生として基本的な日本語能力を有していることを前提として行うものであり、留学生向けのいわゆる「日本語教育」ではない。非母語話者が受講する場合も、非母語話者向けの特別のトレーニングは行わない。

(2)分野によっては、実験等を中心とした、独自の論文フォーマットが確立している。このワークショップは、そういった形式の論文の指導は行わない。

(3)各自、ノートPCを持参してもらうことが多い。

(4)作業量が多いこと、お互いの文章を批判的に検討し合う機会が多いことを承知のうえで受講してほしい。

<授業時間外に必要な学修>

改稿を宿題とすることがあるため、授業時間外での改稿作業が必要となる。(1時間程度)

<提出課題など>

文章作成課題1~3、及び期末レポートを課す。課題1~3については他の受講生と共に、改善点を検討する。レポートはコメントを入れて返却する。

<成績評価方法・基準>

授業への参加態度40%、提出課題・期末レポート60%で評価する。

なお、期末レポートが締切日までに提出されない場合は、評価の対象としない。

<参考図書>

必要に応じて指示する。

<授業計画>

文章表現力の確認 テスト形式。

第2回

課題文1の構想 議論しながら課題文1の構想を練り、執筆を始める。執筆完成は次回までの宿題とする。

第3回

課題文1の相互コメント 課題1の相互コメントを行い、自分の文章の問題点を認識する。改稿は次回までの宿題とする。

第4回

課題1の改訂版の相互コメント・完成 課題1の改訂版の相互コメントを再び行い、それをふまえて完成させる。

第5回

課題文2の構想 議論しながら課題文2の構想を練り、執筆を始める。執筆完成は次回までの宿題とする。

第6回

課題文2の相互コメント 課題2の相互コメントを行い、

自分の文章の問題点を認識する。改稿は次回までの宿題とする。

第7回

課題2の改訂版の相互コメント・完成 課題2の改訂版の相互コメントを再び行い、それをふまえて完成させる。

第8回

課題文3の構想 議論しながら課題文3の構想を練り、執筆を始める。執筆完成は次回までの宿題とする。

第9回

課題文3の相互コメント 課題3の相互コメントを行い、自分の文章の問題点を認識する。改稿は次回までの宿題とする。

第10回

課題3の改訂版の相互コメント・完成 課題3の改訂版の相互コメントを再び行い、それをふまえて完成させる。

第11回

期末レポートの構想 議論しながら期末レポートの構想を練り、執筆を始める。草稿完成は次々回までの宿題とする。

第12回

期末レポートの途中段階の報告と検討 期末レポートの途中段階の報告を行い、問題点などを検討する。

第13回

期末レポート草稿の相互コメント 草稿の相互コメントを行い、自分の文章の問題点を認識する。改稿は次回までの宿題とする。

第14回

期末レポート改訂版の相互コメント・完成 改訂版の相互コメントを行い、それをふまえて完成させる。完成版が期末レポートとなる。

第15回

期末レポートの相互披露・まとめ 完成した期末レポートを相互に披露し、学んできた内容をふりかえる。

-----  
2022年度 前期

1単位

言語文化論ワークショップ

出水 孝典  
-----

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この授業は、大学院人間文化科学研究科のディプロマ・ポリシーである、2.広い視野に立って、さまざまな角度から実社会の問題を判断し、妥当な解決への道筋を提示できる能力をもった人。/ 3.自ら問題を発見し、その解決に向かって主体的に行動し、望ましい成果を達成する能力をもった人、に関連したものである。

具体的には、「会話に見られるある種の特徴」とはということかについて、社会言語学者Robin Lakoff, Debo

rah Tannenによる論文からの抜粋を精読しながら学んでいく。

本ワークショップでは、会話に見られる興味深い特徴としてどのようなものがあり、それがどのような役割を果たし、その違いによってどのように会話が特徴付けられるのかといった点に注目し、テキストを精読しながら考えていく。

<到達目標>

- ・会話に見られる特徴とその意義について理解を深める。
- ・原書講読の基本を身につける。

<授業のキーワード>

グライスの協調の原理、レイコフのポライトネス3原則、高関与スタイル、高配慮スタイル、力、連帯、類似と差異、間接性、割り込み、話題提起、対立

<授業の進め方>

テキストを精読し内容を検討していく。

毎回、担当を決めて予習をしてきてもらう。担当者はテキストの該当部分の日本語訳を作成し、それを全員で検討し、自然な日本語に直していく。その後、内容に関して議論をする。

<履修するにあたって>

英文の精読の仕方、自然な訳し方などについては、参考図書にある表三郎氏の参考書を見て下さい。

<授業時間外に必要な学修>

授業中に担当分として指示されたテキストの箇所を丹念に繰り返し読んで、日本語に訳した上で授業に臨んで下さい。(90分程度)

<提出課題など>

期末レポート

<成績評価方法・基準>

授業での発表等(60%)と期末レポート(40%)をもとに評価する。

<テキスト>

プリントで参考図書に挙げてある洋書文献の抜粋を配布する。

<参考図書>

Deborah Tannen. (2005) *Conversational Style: Analyzing Talk among Friends* (New Edition) Oxford: Oxford University Press.

Deborah Tannen. (1994) *Gender and Discourse*. Oxford: Oxford University Press.

Robin Tolmach Lakoff. (2017) *Context Counts: Papers on Language, Gender, and Power*. Oxford: Oxford University Press.

表三郎. (1991) 『スーパー英文読解法』(上). 東京: 論創社.

表三郎. (1994) 『スーパー英文読解法』(下). 東京: 論創社.

富士哲也. (1996) 『スーパー英文読解演習』. 東京

: 論創社.

富士哲也. (1996) 『スーパー英文読解演習』. 東京: 論創社.

富士哲也. (1997) 『スーパー英文読解演習』. 東京: 論創社.

<授業計画>

導入 授業のテーマ・目的・方針について説明する。

第2回

The logic of politeness; or, Minding your P's and Q's (1) Lakoff (2017: 42-44)を精読し、be clearがどういうことか確認する。

第3回

The logic of politeness; or, Minding your P's and Q's (2) Lakoff (2017: 44-46)を精読し、be politeがどういうことか確認する。

第4回

Stylistic Strategies: Involvement and Considerateness Tannen (2005: 17-19)を精読し、Lakoffの主張を再確認する。

第5回

Features of High-Involvement Style Tannen (2005: 40-42)を精読し、high-involvement styleとhighconsiderateness styleについて確認する。

第6回

Power and Solidarity (1) Tannen (1994: 22-24)を精読し、powerとsolidarityについて確認する。

第7回

Power and Solidarity (2) Tannen (1994: 24-28)を精読し、powerとsolidarityの特性について確認する。

第8回

Similarity/Difference (1) Tannen (1994: 28-31)を精読し、similarityとdifferenceについて確認する。

第9回

Indirectness Tannen (1994: 31-34)を精読し、indirectnessについて確認する。

第10回

interruption Tannen (1994: 34-36)を精読し、interruptionについて確認する。

第11回

silence vs volubility Tannen (1994: 36-39)を精読し、silenceとvolubilityについて確認する。

第12回

Topic Raising Tannen (1994: 39-41)を精読し、topic raisingについて確認する。

第13回

adversativeness (1) Tannen (1994: 41-43)を精読し、adversativenessについて確認する。

第14回

adversativeness (2) Tannen (1994: 43-46)を精読

し、adversativenessについてさらに確認する。

第15回

まとめ Tannen (1994: 46-47)のconclusionを精読し、  
これまで学んだ内容を整理する。

-----  
2022年度 前期

1単位

社会関係論ワークショップ

用田 政晴

-----  
< 授業の方法 >

講義・演習・実習

< 授業の目的 >

本授業においては、本学大学院博士課程におけるディプロマ・ポリシーにある「研究者として自立して研究活動を行い、または高度な専門性を必要とする職業を担うため高度な専門知識や技能を身につける」（知識・技能）ために、「論理的整合性を保ちつつ高い独創性を有し、高度な専門知識や技能を活用して、課題を発見し、多角的に考察して、解決の方法を見出すことができる」（思考・判断・表現）ことを目指します。

そして、広く人文科学研究全般に有効となる「地域における有効な歴史遺産保存と独自の文化政策を確立する調査・分析などの方法論を実践的に学ぶ」ことをこの授業では社会関係論ワークショップと呼んでいきます。

< 到達目標 >

文化財をめぐる法律・法令等、博物館・図書館等の社会教育施設、地域の開発と発掘調査、遺跡の保存・活用など主に歴史環境をめぐる社会の制度的な側面を中心に分析して、フィールドあるいはフィールドワークへとつなげます。そして、地域独自の実践的な歴史遺産保存論と文化政策論の立案を目指します。

< 授業のキーワード >

文化政策 歴史環境 文化財保護 発掘調査 遺跡公園  
博物館

< 授業の進め方 >

当初は、講義形式の中で事例をいくつか紹介し、問題の設定、調査・分析方法、結論と今後の課題などを見ていくと同時に、論文の書き方や体裁など研究者としての基礎的な部分を実践の中で学びます。また、学外でのフィールドワーク、社会教育施設研修を2~3箇所で行います（未定）。その後、新聞・雑誌・文献・ウェブなどから課題を検索し、各自で調査・分析しながら、最終的に小論文執筆と様々な形での発表（口頭、論文、ポスターセッションなど）を試行していきます。

< 履修するにあたって >

実際のフィールドワークを行うにあたって、必要な交通費は各自負担となり、また授業を土日に振り替えることがあります。

< 授業時間外に必要な学修 >

新聞やテレビ、インターネットなどからの情報の中から、歴史、文化遺産、地域社会に関する出来事の意味や問題点を見つける姿勢が必要となります。そんな時間を毎日30分から1時間ほどを授業の予習と復習に充ててください。

< 提出課題など >

授業後半は、毎回、発表資料の配布を求めます。また、最終的に成果物として小論文を提出していただきます。毎回の資料や成果物等については、授業中に論評するなどのフィードバックを行います。

< 成績評価方法・基準 >

授業で提出を求める資料40%、最終小論文40% 授業参加への積極性など20%。

最終小論文についての詳細は、授業の中で改めて説明します。

< テキスト >

使用しません。

< 参考図書 >

田中 琢『考古学で現代を見る』（岩波現代文庫）岩波書店、2015年

田中 琢・佐原 真『考古学の散歩道』（岩波新書）岩波書店、1993年

藤尾慎一郎『日本の先史時代』（中公新書）中央公論新社、2021年

小畑弘己ほか『ジュニア日本の歴史 国のなりたち』小学館、2010年

< 授業計画 >

ガイダンス 教員・受講生の自己紹介、授業の進め方、課題、研究のルール・マナー、成績評価などについての案内・説明を行います。

第2回

論文作成の基本 タイトル、構成、文体、漢字とひらがな表記、図面・写真の掲載、引用・文献表記、差別表現、著作権などの基本的事項を学びます。

第3回

フィールドワーク（1） 神戸市垂水区の五色塚古墳と資料館を訪問し（予定）、遺跡の保存と遺跡公園・資料館の実態を学びます。

第4回

研究調査事例（1） 教員が課題抽出、分析・調査、報告などの事例（1）を紹介します。

第5回

研究調査事例（2） 教員が課題抽出、分析・調査、報告などの事例（2）を紹介します。

第6回

研究調査事例（3） 教員が課題抽出、分析・調査、報告などの事例（3）を紹介します。

第7回

研究課題の検索・設定 この授業時まで新聞・文献・インターネット等をもとに地域社会の問題を抽出して

おき、この回に研究課題となるか、全員でそれぞれのテーマ案を検討します。

#### 第8回

フィールドワーク(2) 可能であれば、神戸市西区の吉田王塚古墳と吉田郷土館を訪ね、文化庁の管轄下にある五色塚古墳と宮内庁の管理下にある陵墓参考地の王塚古墳の違いと共通項を学びますが、学内での講義形式に振り替える場合もあります。

#### 第9回

調査・研究作業(1) 先行研究の分析と取りまとめ、文献検索、資料収集と整理、分析と解釈などを行います。

#### 第10回

調査・研究作業(2) 先行研究の分析と取りまとめ、文献検索、資料収集と整理、分析と解釈などを行います。

#### 第11回

調査・研究作業(3) 先行研究の分析と取りまとめ、文献検索、資料収集と整理、分析と解釈などを行います。

#### 第12回

調査・研究作業(4) 先行研究の分析と取りまとめ、文献検索、資料収集と整理、分析と解釈などを行います。

#### 第13回

フィールドワーク(3) 播磨町にある兵庫県立考古博物館・兵庫県まちづくり技術センター・播磨町郷土資料館および大中遺跡公園を訪ね、文化財の保護・保存の総合的な在り方の実態を知る。

#### 第14回

フィールドワーク(補足)と小論文作成(1) 橋の科学館、野島断層保存館、竹中大工道具館など身近にある小規模博物館を概観し、博物館・資料館の見方・評価の仕方を知る一方で、小論文作成準備を行う。

#### 第15回

小論文作成(2)と研究発表 各自の課題について小論文を取りまとめ、必要な方法で発表を行い、全員で批評・評価してみます。

-----  
2022年度 後期

1単位

社会構造論ワークショップ

三田 牧  
-----

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本授業では、人類学的手法を用いながら調査・研究を行うスキルを学びます。

この授業は人間文化学研究科のディプロマ・ポリシー「自ら発見した問題に対して、広い視野に立ち、さまざまな角度から検討を加え、妥当な解決への道筋を提示できる。」を目指すものです。

社会構造論講座における位置づけとしては、フィールド

調査をもとにした研究力を養う場です

< 到達目標 >

人類学的フィールドワークを用いて、自分の関心を深めることができる。

「人から学ぶ」調査の基礎を身に着けることができる。

< 授業のキーワード >

人類学的フィールドワーク

< 授業の進め方 >

それぞれが課題をたて、人類学的なフィールドワークを用いた研究を立案し、実施しします。その成果は各自発表し、授業で合評します。何をテーマにするかは、大学院生の研究テーマに合わせて調整することができます。

< 授業時間外に必要な学修 >

自分の研究課題をたて、フィールドワークを用いた調査を実際に行ってもらいます。(60時間程度)

< 提出課題など >

研究成果は授業内で発表してもらいます。合評し、コメントします。

< 成績評価方法・基準 >

研究への取り組み、その内容を評価します。割合はおおよそ以下の通りです。プレゼンテーションの充実度・完成度40%、授業への積極的参加度20%、小論文の充実度・完成度40%。

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

授業において適宜紹介します

< 授業計画 >

イントロダクション、人類学的研究について 授業について解説します。人類学的研究の調査方法について解説します。

#### 第2回

人類学的調査研究の入門書を読む 人類学的調査方法に関し、入門書を読みます

#### 第3回

研究倫理・研究計画 研究倫理について学びます。また、この授業において取り組む課題を各自考え、研究計画を立てます。

#### 第4回

聞き取り調査(1) 人類学の調査スキルの一つである聞き取り調査について、練習します。

#### 第5回

聞き取り調査(2) 聞き取り調査の練習をします

#### 第6回

フィールド調査 外に出て、社会事象の観察をします

#### 第7回

観察してきたことの報告 観察してきたことの報告をします

#### 第8回

先行研究の調査(1) 課題に関し、先行研究を収集します

第9回

先行研究の調査(2) 課題に関し、先行研究を収集します

第10回

データの整理・分析(1) これまで集めてきたデータや資料の整理・分析をします

第11回

データの整理・分析(2) これまで集めてきたデータや資料の整理・分析をします

第12回

小論文の作成(1) この授業で取り組んできた課題について小論文を執筆します。

第13回

小論文の作成(2) この授業で取り組んできた課題について小論文を執筆します。

第14回

小論文の作成(3) この授業で取り組んできた課題について小論文を執筆します。

第15回

研究発表と合評 研究の発表と合評をします

-----  
2022年度 後期

1単位

人間形成論ワークショップ

井上 豊久

-----  
< 授業の方法 >

講演と演習

質問等のメールアドレスはtinoue@human.kobegakuin.ac.jpです。

< 授業の目的 >

広い学識と高度な専門的知識を用いて現代社会の多様な要求に応えることが出来る力量を形成する(DP)。実践現場で指導的役割を果たすことを目指し、生涯学習についてのテーマを中心に最新の状況を検討及びワークショップ指導力の育成を図る。DP専攻分野において、高度な知識や技能を活用して、課題を発見し、多角的に考察して解決の方法を見出すことができる力量形成を目指す。

< 到達目標 >

実践的かつ柔軟な思考能力を養い、社会貢献できるように(DP)各発達段階の生涯学習の理解、生涯学習研究の技能獲得、ワークショップ実践力の向上を図る。

< 授業の進め方 >

生涯学習についてのテーマの説明・検討とワークショップ学習

< 授業時間外に必要な学修 >

課題提出、自己研究を基本とし、180分の授業外学修を必須とする。

< 提出課題など >

ミニレポート、最終レポート、提出物は成績評価に反映させるほか、適宜、匿名にて論評を行う。

< 成績評価方法・基準 >

各回レポート40%、最終レポート60%の総合判断

< 参考図書 >

随時指定

< 授業計画 >

オリエンテーション 授業の目標・内容と方法、評価の説明

第2回

教育・生涯学習研究の方法1 問題意識、仮説設定、研究方法の説明

第3回

教育・生涯学習研究の方法2 事例研究と統計処理

第4回

世界の教育・生涯学習、日本の教育・生涯学習、資料収集と整理 海外の教育の紹介、データ利用

第5回

生涯学習に関するワークショップ・レポート作成の基本  
課題の検討、ワークショップ・課題レポート作成の基本について説明

第6回

事例研究・ワークショップ・レポート作成実習1 ワークショップ事例等の検討、課題説明、研究レポート作成について

第7回

事例研究・ワークショップ・レポート作成実習2 ワークショップ事例等の検討、課題説明、研究レポート作成について

第8回

ワークショップ・レポート作成実習1 ワークショップ、課題説明、研究レポート作成について

第9回

ワークショップ・レポート作成実習2 ワークショップ、課題説明、研究レポート作成について

第10回

ワークショップ・レポート作成実習3 ワークショップ、課題説明、研究レポート作成について

第11回

ワークショップ・レポート作成実習4 ワークショップ、課題説明、研究レポート作成について

第12回

ワークショップ・レポート作成実習5 ワークショップ、課題説明、研究レポート作成について

第13回

ワークショップ・レポート作成実習6 課題説明、研究レポート作成の実習、プレゼンテーションの仕方

#### 第14回

発表とまとめ1 各自の研究成果をレポート発表し、研究課題をまとめ、改善していく

#### 第15回

発表とまとめ2 各自の研究成果を発表し、研究課題をまとめ、改善していく

-----  
2022年度 前期～後期

4単位

人間行動論特別研究（1年次）

立田 慶裕  
-----

< 授業の方法 >

演習形式とする。

オンラインでの授業とする。詳細は、遠隔授業についてを参照のこと

< 授業の目的 >

本科目は本学人間文化科学研究科のDPIに定める「高度な専門知識と技能を習得し、それを実際に運用することができる」知識を有し、「主体的に研究・教育活動を計画・遂行し、独創的な研究によって学問的世界の発展に貢献することができる」能力を涵養すると同時に「研究成果を積極的に社会に還元することによって、真に豊かな社会を開拓するために国内外で先導的役割を果たすことができる」態度を身につけられるようにすることを目的とする。

受講者の研究内容をブラッシュアップして、優れた研究内容となるよう、その方法と内容について指導し、自律的な研究者としての形成を図る。その成果として、人間文化研究科DPIにある、知識・技能として、専門領域において十分な知識と技能を蓄積していく。本講義は、10年以上の社会教育リーダーの経験と国立教育政策研究所における生涯学習研究の実務経験を有する講師が担当し、その経験を理論と実践の講義に活用する。

< 到達目標 >

大学院後期課程における博士論文の申請資格として、査読論文2編以上を作成し、最終的な論文完成を目指す。

年間最低1本以上の論文の研究・執筆を行い、関連学会誌への投稿を行い、その掲載ができる。

研究目標に応じて、到達目標は異なるが、できるだけ科学的根拠に基づく論文を執筆するため、データの収集、分析、考察ができる。

< 授業のキーワード >

フィールドワーク、質問紙調査、研究計画書、先行文献、論文執筆

< 授業の進め方 >

研究テーマについて、論文執筆を進めるための個別指導を行う。

第1回は、対面講義で行うが、以降は、オンライン授業とする。

< 授業時間外に必要な学修 >

テーマに関連した文献収集とデータベースの作成、論文の執筆、フィールドワークを毎日行う。

< 成績評価方法・基準 >

年間最低1本以上の論文の研究・執筆を行い、関連学会誌への投稿を行い、その掲載ができたかどうかで評価する。

また、研究目標に応じて、到達目標は異なるが、できるだけ科学的根拠に基づく論文となったかどうか、データの収集、分析、考察のプロセスで研究のスキルが上達したか、どうかで評価する。

< 授業計画 >

オリエンテーション 年間を通じての論文テーマの確認と研究のプロセス、研究計画の指導を行う。

第2回

文献研究1 先行文献研究を行う。

第3回

文献研究2 先行文献研究の発表1

第4回

文献研究3 先行文献研究発表2

第5回

文献研究4 先行文献研究発表3

第6回

調査データの収集1 先行調査データの収集と発表

第7回

調査データの収集2 オリジナルデータ収集のための調査1

第8回

調査データの収集3 オリジナルデータ収集のための調査2

第9回

調査データの分析1 オリジナル調査の分析作業1

第10回

調査データの分析2 オリジナルデータの分析作業2

第11回

論文執筆1 論文初稿の提出と検討

第12回

論文執筆2 論文初稿の提出と検討

第13回

論文発表1 論文の研究会発表

第14回

論文の発表2 論文の学会誌発表

第15回

ふりかえり 完成論文の再考察と新計画の構想

-----  
2022年度 前期～後期

4単位

人間行動論特別研究（1年次）

井上 豊久  
-----

< 授業の方法 >

講義と演習、ワークショップ等も行います

< 授業の目的 >

専門的論文作成のための研究を行う。ディプロマポリシーに沿って、高い倫理性と強固な責任感をもって継続的に研究に取り組み、多様な人々と協働して学会や専門分野で理論や応用に重要な貢献を行うことができる力量形成を目指す。

< 到達目標 >

論文作成のあり方の検討、  
先行研究の分析方法の修得、  
研究方法の確立、  
研究成果の適切な提示の仕方の力量の向上、

< 授業のキーワード >

研究論文、  
専門学会、  
審査、スケジュール管理

< 授業の進め方 >

講義、演習、実践力強化、研究発表と並行して論議を深めながら行っていく

< 授業時間外に必要な学修 >

90分の授業に対して180分以上の自宅研究を必修とする

< 提出課題など >

随時、課題レポートを提出し、提出物は成績評価に反映させるほか、適宜、論評を行う。

< 成績評価方法・基準 >

テーマについてレポート提出30%、研究発表の内容及び  
議論の中身30%、  
最終的なまとめの研究成果40%により評価を行う

< 授業計画 >

オリエンテーション 本授業の概要について説明する、  
研究倫理についても確認する

第2回

研究発表と議論 受講生がテーマについてレポート提出  
研究発表し論議しながら研究をブラッシュアップしていく

第3回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

第4回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論

議しながら研究をブラッシュアップしていく

第5回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

第6回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

第7回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

第8回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し  
論議しながら研究をブラッシュアップしていく

第9回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表  
し論議しながら研究をブラッシュアップしていく

第10回

中間的なまとめ発表 受講生がテーマについて中間的な  
まとめの研究発表し論議しながら研究をブラッシュアッ  
プしていく

第11回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表  
し論議しながら研究をブラッシュアップしていく

第12回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

第13回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

第14回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

第15回

本授業での前期最終まとめ発表 受講生がテーマについ  
て本授業での最終まとめの研究発表し論議しながら研究  
をブラッシュアップしていく

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し議論しながら研究をブラッシュアップしていく  
研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し議論しながら研究をブラッシュアップしていく  
研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し議論しながら研究をブラッシュアップしていく  
研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し議論しながら研究をブラッシュアップしていく  
研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し議論しながら研究をブラッシュアップしていく  
研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し議論しながら研究をブラッシュアップしていく  
研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し議論しながら研究をブラッシュアップしていく  
研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し議論しながら研究をブラッシュアップしていく

-----  
2022年度 前期～後期

4単位

人間行動論特別研究（2年次）

立田 慶裕  
-----

< 授業の方法 >

演習形式とする。

オンラインでの授業とする。詳細は、遠隔授業についてを参照のこと

< 授業の目的 >

本科目は本学人間文化科学研究科のDPに定める「高度な専門知識と技能を習得し、それを実際に運用することができる」知識を有し、「主体的に研究・教育活動を計画・遂行し、独創的な研究によって学問的世界の発展に貢献することができる」能力を涵養すると同時に「研究成果を積極的に社会に還元することによって、真に豊かな社会を開拓するために国内外で先導的役割を果たすことができる」態度を身につけられるようにすることを目的とする。

受講者の研究内容をブラッシュアップして、優れた研究内容となるよう、その方法と内容について指導し、自律的な研究者としての形成を図る。本講義は、10年以上の社会教育リーダーの経験と国立教育政策研究所における生涯学習研究の実務経験を有する講師が担当し、その経験を理論と実践の講義に活用する。

< 到達目標 >

大学院後期課程における博士論文の申請資格として、査読論文2編以上を作成し、最終的な論文完成を目指す。

年間最低1本以上の論文の研究・執筆を行い、関連学会誌への投稿を行い、その掲載ができる。

研究目標に応じて、到達目標は異なるが、できるだけ科学的根拠に基づく論文を執筆するため、データの収集、分析、考察ができる。

< 授業のキーワード >

フィールドワーク、質問紙調査、研究計画書、先行文献、

論文執筆

< 授業の進め方 >

研究テーマについて、論文執筆を進めるための個別指導を行う。

第1回は、対面講義で行うが、以降は、オンライン授業とする。

< 授業時間外に必要な学修 >

テーマに関連した文献収集とデータベースの作成、論文の執筆、フィールドワークを毎日行う。

< 成績評価方法・基準 >

年間最低1本以上の論文の研究・執筆を行い、関連学会誌への投稿を行い、その掲載ができたかどうかで評価する。

また、研究目標に応じて、到達目標は異なるが、できるだけ科学的根拠に基づく論文となったかどうか、データの収集、分析、考察のプロセスで研究のスキルが上達したか、どうかで評価する。

< 授業計画 >

オリエンテーション 年間を通じての論文テーマの確認と研究のプロセス、研究計画の指導を行う。

第2回

文献研究1 先行文献研究を行う。

第3回

文献研究2 先行文献研究の発表1

第4回

文献研究3 先行文献研究発表2

第5回

文献研究4 先行文献研究発表3

第6回

調査データの収集1 先行調査データの収集と発表

第7回

調査データの収集2 オリジナルデータ収集のための調査1

第8回

調査データの収集3 オリジナルデータ収集のための調査2

第9回

調査データの分析1 オリジナル調査の分析作業1

第10回

調査データの分析2 オリジナルデータの分析作業2

第11回

論文執筆1 論文初稿の提出と検討

第12回

論文執筆2 論文初稿の提出と検討

第13回

論文発表1 論文の研究会発表

第14回

論文の発表2 論文の学会誌発表

第15回

ふりかえり 完成論文の再考察と新計画の構想

-----  
2022年度 前期～後期

4単位

人間行動論特別研究（2年次）

井上 豊久  
-----

< 授業の方法 >

講義と演習、ワークショップ等も行います

< 授業の目的 >

専門的論文作成のための研究を行う。ディプロマポリシーに沿って、高い倫理性と強固な責任感をもって継続的に研究に取り組み、多様な人々と協働して学会や専門分野で理論や応用に重要な貢献を行うことができる力量形成を目指す。

< 到達目標 >

論文作成のあり方の検討、  
先行研究の分析方法の修得、  
研究方法の確立、  
研究成果の適切な提示の仕方の力量の向上、

< 授業のキーワード >

研究論文、  
専門学会、  
審査、スケジュール管理

< 授業の進め方 >

講義、演習、実践力強化、研究発表と並行して論議を深めながら行っていく

< 授業時間外に必要な学修 >

90分の授業に対して180分以上の自宅研究を必修とする

< 提出課題など >

随時、課題レポートを提出し、提出物は成績評価に反映させるほか、適宜、論評を行う。

< 成績評価方法・基準 >

テーマについてレポート提出30%、研究発表の内容及び  
議論の中身30%、  
最終的なまとめの研究成果40%により評価を行う

< 授業計画 >

オリエンテーション 本授業の概要について説明する、  
研究倫理についても確認する

第2回

研究発表と議論 受講生がテーマについてレポート提出  
研究発表し論議しながら研究をブラッシュアップしていく

第3回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

第4回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論

議しながら研究をブラッシュアップしていく

第5回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

第6回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

第7回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

第8回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し  
論議しながら研究をブラッシュアップしていく

第9回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表  
し論議しながら研究をブラッシュアップしていく

第10回

中間的なまとめ発表 受講生がテーマについて中間的な  
まとめの研究発表し論議しながら研究をブラッシュアッ  
プしていく

第11回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表  
し論議しながら研究をブラッシュアップしていく

第12回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

第13回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

第14回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

第15回

本授業での前期最終まとめ発表 受講生がテーマについ  
て本授業での最終まとめの研究発表し論議しながら研究  
をブラッシュアップしていく

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論議しながら研究をブラッシュアップしていく  
研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論議しながら研究をブラッシュアップしていく  
研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論議しながら研究をブラッシュアップしていく  
研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論議しながら研究をブラッシュアップしていく  
研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論議しながら研究をブラッシュアップしていく  
研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論議しながら研究をブラッシュアップしていく  
研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論議しながら研究をブラッシュアップしていく  
研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論議しながら研究をブラッシュアップしていく

-----  
2022年度 前期～後期

4単位

人間行動論特別研究（3年次）

立田 慶裕

-----  
<授業の方法>

演習形式とする。

オンラインでの授業とする。詳細は、遠隔授業についてを参照のこと

<授業の目的>

本科目は本学人間文化科学研究科のDPに定める「高度な専門知識と技能を習得し、それを実際に運用することができる」知識を有し、「主体的に研究・教育活動を計画・遂行し、独創的な研究によって学問的世界の発展に貢献することができる」能力を涵養すると同時に「研究成果を積極的に社会に還元することによって、真に豊かな社会を開拓するために国内外で先導的役割を果たすことができる」態度を身につけられるようにすることを目的とする。

受講者の研究内容をブラッシュアップして、優れた研究内容となるよう、その方法と内容について指導し、自律的な研究者としての形成を図る。本講義は、10年以上の社会教育リーダーの経験と国立教育政策研究所における生涯学習研究の実務経験を有する講師が担当し、その経験を理論と実践の講義に活用する。

<到達目標>

大学院後期課程における博士論文の申請資格として、査読論文2編以上を作成し、最終的な論文完成を目指す。

年間最低1本以上の論文の研究・執筆を行い、関連学会誌への投稿を行い、その掲載ができる。

研究目標に応じて、到達目標は異なるが、できるだけ科学的根拠に基づく論文を執筆するため、データの収集、分析、考察ができる。最終年度にあたる3年次には、これまでに発表した論文を整理し、一つの博士論文として完成させることを目標とする。

<授業のキーワード>

フィールドワーク、質問紙調査、研究計画書、先行文献、論文執筆

<授業の進め方>

研究テーマについて、論文執筆を進めるための個別指導を行う。

第1回は、対面講義で行うが、以降は、オンライン授業とする。

<授業時間外に必要な学修>

テーマに関連した文献収集とデータベースの作成、論文の執筆、フィールドワークを毎日行う。

<成績評価方法・基準>

年間最低1本以上の論文の研究・執筆を行い、関連学会誌への投稿を行い、その掲載ができたかどうかで評価する。

また、研究目標に応じて、到達目標は異なるが、できるだけ科学的根拠に基づく論文となったかどうか、データの収集、分析、考察のプロセスで研究のスキルが上達したか、どうかで評価する。

<授業計画>

オリエンテーション 年間を通じての論文テーマの確認と研究のプロセス、研究計画の指導を行う。

第2回

文献研究1 先行文献研究を行う。

第3回

文献研究2 先行文献研究の発表1

第4回

文献研究3 先行文献研究発表2

第5回

文献研究4 先行文献研究発表3

第6回

調査データの収集1 先行調査データの収集と発表

第7回

調査データの収集2 オリジナルデータ収集のための調査1

第8回

調査データの収集3 オリジナルデータ収集のための調査2

第9回

調査データの分析1 オリジナル調査の分析作業1

第10回

調査データの分析2 オリジナルデータの分析作業2

第11回

論文執筆1 論文初稿の提出と検討

第12回

論文執筆2 論文初稿の提出と検討

第13回

論文発表1 論文の研究会発表

第14回

論文の発表2 論文の学会誌発表

第15回

ふりかえり 完成論文の再考察と新計画の構想

2022年度 前期～後期

4単位

人間行動論特別研究（3年次）

井上 豊久

< 授業の方法 >

講義と演習、ワークショップ等も行います

< 授業の目的 >

専門的論文作成のための研究を行う。ディプロマポリシーに沿って、高い倫理性と強固な責任感をもって継続的に研究に取り組み、多様な人々と協働して学会や専門分野で理論や応用に重要な貢献を行うことができる力量形成を目指す。

< 到達目標 >

論文作成のあり方の検討、  
先行研究の分析方法の修得、  
研究方法の確立、  
研究成果の適切な提示の仕方の力量の向上、

< 授業のキーワード >

研究論文、  
専門学会、  
審査、スケジュール管理

< 授業の進め方 >

講義、演習、実践力強化、研究発表と並行して論議を深めながら行っていく

< 授業時間外に必要な学修 >

90分の授業に対して180分以上の自宅研究を必修とする

< 提出課題など >

随時、課題レポートを提出し、提出物は成績評価に反映させるほか、適宜、論評を行う。

< 成績評価方法・基準 >

テーマについてレポート提出30%、研究発表の内容及び  
議論の中身30%、

最終的なまとめの研究成果40%により評価を行う

< 授業計画 >

オリエンテーション 本授業の概要について説明する、  
研究倫理についても確認する

第2回

研究発表と議論 受講生がテーマについてレポート提出  
研究発表し論議しながら研究をブラッシュアップしていく

第3回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

第4回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

第5回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

第6回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

第7回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

第8回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し  
論議しながら研究をブラッシュアップしていく

第9回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表  
し論議しながら研究をブラッシュアップしていく

第10回

中間的なまとめ発表 受講生がテーマについて中間的な  
まとめの研究発表し論議しながら研究をブラッシュア  
ップしていく

第11回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表  
し論議しながら研究をブラッシュアップしていく

第12回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

第13回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

第14回

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

第15回

本授業での前期最終まとめ発表 受講生がテーマについ  
て本授業での最終まとめの研究発表し論議しながら研究  
をブラッシュアップしていく

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論  
議しながら研究をブラッシュアップしていく

研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論議しながら研究をブラッシュアップしていく  
 研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論議しながら研究をブラッシュアップしていく  
 研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論議しながら研究をブラッシュアップしていく  
 研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論議しながら研究をブラッシュアップしていく  
 研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論議しながら研究をブラッシュアップしていく  
 研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論議しながら研究をブラッシュアップしていく  
 研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論議しながら研究をブラッシュアップしていく  
 研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論議しながら研究をブラッシュアップしていく  
 研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論議しながら研究をブラッシュアップしていく  
 研究発表と議論 受講生がテーマについて研究発表し論議しながら研究をブラッシュアップしていく

-----  
 2022年度 前期～後期

4単位

地域文化論特別研究（1年次）

森栗 茂一

-----  
 < 授業の方法 >

演習（状況により遠隔で実施）

< 授業の目的 >

本授業は、人間文化学研究科地域文化論専攻の博士後期における高度な専門的かつ総合的な研究を行い、その研究成果を教育の場や実社会において実践できる人材を育成し、創造的・自立的な研究能力をもつ優れた研究者の養成するための、特別の研究テーマを考えることを目的とする。

< 到達目標 >

- ・博士論文執筆に要する、高度な専門的かつ総合的な研究能力を身に着く。
- ・その研究成果を教育の場や実社会において実践できる態度が身に着く。

< 授業の進め方 >

博士論文研究テーマに沿って対話的に講じる。

< 授業時間外に必要な学修 >

2つの論文、および参考文献表、フィールド整理等、授業時間以外に、その授業時間を大幅に越える時間が必要となる。

< 成績評価方法・基準 >

論文の進み具合により、個別に判断する。

< 授業計画 >

研究指導のガイダンス

第2回

研究倫理 調査される迷惑、個人情報保護、剽窃防止、研究記録の作成、アカデミックハラスメント防止等に関して、指導する。

第3回

指導者の研究方法から学ぶ 1

第4回

研究計画の展望

第5回

フィールドワーク 1

第6回

研究仮説 と 先行研究

第7回

問い と 先行研究 2

第8回

個別研究指導

第9回

先行研究と研究方法 1

第10回

先行研究と研究方法 2

第11回

中間発表 1

第12回

指導者の研究方法から学ぶ 2

第13回

博士論文の文献整理

第14回

博士論文の方法検討

第15回

夏期研究活動の指導

第16回

自他の研究成果のふりかえり 1

第17回

フィールドワーク 2

第18回

論文構成のみなおし 1

第19回

論文構成のみなおし 2

第20回

個別研究指導

第21回

中間発表 2

第22回

研究の総合的検討

第23回

個別論文指導 1

第24回  
個別論文チェック  
第25回  
博士論文構造の検討  
第26回  
中間論文の最終チェック  
第27回  
年次のふりかえり（最終論文をめざして）  
第28回  
現時点での口頭試問に対する検討  
第29回  
現状での博士論文完成をめざした研究計画の確認  
第30回

-----  
2022年度 前期～後期

4単位

地域文化論特別研究（2年次）

森栗 茂一

-----  
< 授業の方法 >

演習（状況により遠隔で実施）

< 授業の目的 >

本授業は、人間文化学研究科地域文化論専攻の博士後期における高度な専門的かつ総合的な研究を行い、その研究成果を教育の場や実社会において実践できる人材を育成し、創造的・自立的な研究能力をもつ優れた研究者の養成するための、特別の研究テーマを考えることを目的とする。

< 到達目標 >

・博士論文執筆に要する、高度な専門的かつ総合的な研究能力を身に着く。

・その研究成果を教育の場や実社会において実践できる態度が身に着く。

< 授業の進め方 >

博士論文研究テーマに沿って対話的に講じる。

< 授業時間外に必要な学修 >

2つの論文、および参考文献表、フィールド整理等、授業時間以外に、その授業時間を大幅に越える時間が必要となる。

< 成績評価方法・基準 >

論文の進み具合により、個別に判断する。

< 授業計画 >

研究指導のガイダンス

第2回

研究倫理 調査される迷惑、個人情報保護、剽窃防止、研究記録の作成、アカデミックハラスメント防止等に関して、指導する。

第3回

指導者の研究方法から学ぶ 1

第4回

研究計画の展望

第5回

フィールドワーク 1

第6回

研究仮説 と 先行研究

第7回

問い と 先行研究 2

第8回

個別研究指導

第9回

先行研究と研究方法 1

第10回

先行研究と研究方法 2

第11回

中間発表 1

第12回

指導者の研究方法から学ぶ 2

第13回

博士論文の文献整理

第14回

博士論文の方法検討

第15回

夏期研究活動の指導

第16回

自他の研究成果のふりかえり 1

第17回

フィールドワーク 2

第18回

論文構成のみなおし 1

第19回

論文構成のみなおし 2

第20回

個別研究指導

第21回

中間発表 2

第22回

研究の総合的検討

第23回

個別論文指導 1

第24回

個別論文チェック

第25回

博士論文構造の検討

第26回

中間論文の最終チェック

第27回

年次のふりかえり（最終論文をめざして

第28回

現時点での口頭試問に対する検討

第29回

現状での博士論文完成をめざした研究計画の確認

第30回

-----  
2022年度 前期

1単位

表現言語論ワークショップ

中村 健史

-----  
< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、人間文化学研究科博士課程のディプロマポリシーのうち「高度な専門知識と技能を習得し、それを実際に運用することができる」ことを目指して実施される。

この科目は人間文化学研究科修士課程地域文化論専攻に開講する科目である。

この科目は漢文の講読を行う。今季取りあげるのは『論語徴集覧』である。『論語』には古くから数多くの注釈があり、甲論乙駁、なおその明解を見ない箇所も少なくない。松平頼寛（1703? 63年）の編んだ『論語徴集覧』（1760年）は、そうした注釈類のうちから、魏・何晏（190? 249年）の『集解』、宋・朱熹（1130? 1200年）の『集註』、伊藤仁斎（1627? 1705年）の『古義』を選び、荻生徂徠（1666? 1728年）の『論語徴』に附して比較対象を容易ならしめた書物である。

授業の目的は以下の通りである。

（1）漢文を正しく訓読できるようになる。

（2）漢文を正しく現代語訳できるようになる。

（3）漢文の任意の箇所について文法（句法）の説明を行えるようになる。

（4）『論語』解釈をとおして儒教思想史に関する知識を得る。

この科目は、教職科目（国語）に属する。実務経験（高等学校を中心とする国語科教員）のある教員が担当するので、必要に応じて教育現場での実例や知見にも触れつつ授業を進めてゆく。

< 到達目標 >

（1）漢文を正しく訓読し、文章・口頭で表現できる。

（2）漢文を正しく現代語訳し、文章・口頭で表現できる。

（3）漢文の任意の箇所について文法（句法）の説明を行える。

（4）『論語』を通して把握した各時代の儒教思想の特色を、文章で説明できる。

< 授業のキーワード >

論語、孔子、伊藤仁斎、荻生徂徠

< 授業の進め方 >

演習形式で行うが、担当者をあらかじめ決めることはしないので、全員が毎回予習してくる必要がある。その場で指名された担当者が訓読を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては漢文知識や文法（句法）に関する説明を追加で求めることもある。

なお、授業の性質上、授業計画（進度、内容）に変更を加える場合がある。

< 履修するにあたって >

漢文を白文で読める程度の学力があることを前提として授業を進める。かならず下記URLから教材の内容を確認した上で授業に出席すること。このテキストを辞書なしで訓読できる程度の学力がない場合は、この授業を履修する際に大きな支障が生じる。

{[https://archive.wul.waseda.ac.jp/kosho/ro12/ro12\\_00091/ro12\\_00091\\_0002/ro12\\_00091\\_0002.pdf](https://archive.wul.waseda.ac.jp/kosho/ro12/ro12_00091/ro12_00091_0002/ro12_00091_0002.pdf)}

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時間外に必要な学修の目安となる時間は、1回あたり3時間程度である。次の授業に向けて講読箇所を訓読・現代語訳し、必要に応じて文法的な分析を加えて予習しておくこと。また、必要に応じて、前時の授業内容を復習し、理解・記憶すること。

< 提出課題など >

予習状況を確認するため数回ノートの提出を求める。また期末レポートの提出が必要である。ノート提出や授業時の発表については、必要に応じてその場で講評し、受講生にフィードバックする。期末レポートについては、提出後、優秀作を提示してフィードバックとする。（したがって、この授業における提出物はフィードバックに利用する場合があることを、受講生はあらかじめ了承しておくこと。なお全体に配布・掲示する場合には、氏名・学籍番号等が分からないように加工する。）

< 成績評価方法・基準 >

授業内で指名されて講読・解釈したときの回答内容を40%として評価する。評価基準は、「到達目標」（1）（2）（3）及び「適切に予習を行っているか」である。

授業時に数回、ノートの提出を求める。ノートに記入された予習内容を30%として評価する。評価基準は、「到達目標」（1）（2）及び「適切に予習を行っているか」である。

期末レポートを30%として評価する。評価基準は、「到達目標」（1）（2）（4）である。

<テキスト>

下記を印刷して持参すること。

{[https://archive.wul.waseda.ac.jp/kosho/ro12/ro12\\_00091/ro12\\_00091\\_0002/ro12\\_00091\\_0002.pdf](https://archive.wul.waseda.ac.jp/kosho/ro12/ro12_00091/ro12_00091_0002/ro12_00091_0002.pdf)}

<参考図書>

授業時に漢和辞典を持参すること。電子辞書でも可。

<授業計画>

『論語徴集覧』講読（１） 為政篇？ 4丁を講読する。指名された担当者が訓読を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては漢文知識や文法（句法）に関する説明を追加で求めることもある。「授業の目的」（１）？（４）に対応（以下すべて同じ）。

第2回

『論語徴集覧』講読（２） 為政篇？ 6丁を講読する。指名された担当者が訓読を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては漢文知識や文法（句法）に関する説明を追加で求めることもある。

第3回

『論語徴集覧』講読（３） 為政篇？ 8丁を講読する。指名された担当者が訓読を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては漢文知識や文法（句法）に関する説明を追加で求めることもある。

第4回

『論語徴集覧』講読（４） 為政篇？ 10丁を講読する。指名された担当者が訓読を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては漢文知識や文法（句法）に関する説明を追加で求めることもある。

第5回

『論語徴集覧』講読（５） 為政篇？ 12丁を講読する。指名された担当者が訓読を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては漢文知識や文法（句法）に関する説明を追加で求めることもある。

第6回

『論語徴集覧』講読（６） 為政篇？ 14丁を講読する。指名された担当者が訓読を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては漢文知識や文法（句法）に関する説明を追加で求めることもある。

第7回

『論語徴集覧』講読（７） 為政篇？ 16丁を講読する。指名された担当者が訓読を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては漢文知識や文法（句法）に関する説明を追加で求めることもある。

第8回

『論語徴集覧』講読（８） 為政篇？ 18丁を講読する。指名された担当者が訓読を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては漢文知識や文法（句法）に関する説明を追加で求めることもある。

第9回

『論語徴集覧』講読（９） 為政篇？ 20丁を講読する。指名された担当者が訓読を読み上げ、現代語訳を発表す

る。場合によっては漢文知識や文法（句法）に関する説明を追加で求めることもある。

第10回

『論語徴集覧』講読（10） 為政篇？ 22丁を講読する。指名された担当者が訓読を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては漢文知識や文法（句法）に関する説明を追加で求めることもある。

第11回

『論語徴集覧』講読（11） 為政篇？ 24丁を講読する。指名された担当者が訓読を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては漢文知識や文法（句法）に関する説明を追加で求めることもある。

第12回

『論語徴集覧』講読（12） 為政篇？ 26丁を講読する。指名された担当者が訓読を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては漢文知識や文法（句法）に関する説明を追加で求めることもある。

第13回

『論語徴集覧』講読（13） 為政篇？ 28丁を講読する。指名された担当者が訓読を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては漢文知識や文法（句法）に関する説明を追加で求めることもある。

第14回

『論語徴集覧』講読（14） 為政篇？ 30丁を講読する。指名された担当者が訓読を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては漢文知識や文法（句法）に関する説明を追加で求めることもある。

第15回

『論語徴集覧』講読（15） 為政篇？ 32丁を講読する。指名された担当者が訓読を読み上げ、現代語訳を発表する。場合によっては漢文知識や文法（句法）に関する説明を追加で求めることもある。

-----  
2022年度 後期

1単位

表現言語論ワークショップ

長谷川 弘基  
-----

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

「表現言語論ワークショップI」に引き続き、英語の詩を意味だけではなくスタイルや口調を意識して日本語に訳してみる。

この授業は主に人間文化学研究所ディプロマポリシーに示す「専門領域において十分な知識と技能を蓄積し、それを学問上の研究課題や実社会の諸問題に対して的確に応用することができる」能力の涵養を目指すものである。

<到達目標>

1) 英語の詩を正確に理解する。  
2) 英語の詩の内容のみならずスタイルの特徴も理解する。  
3) 日本語表現を工夫し、詩の形に訳す。  
<授業の進め方>  
最初に英語の詩の読解を行い、ディスカッションを通してその詩の特徴を理解する。その後、各自で翻訳を進め、最終的に自分自身の翻訳を「作品」として提示する。  
<授業時間外に必要な学修>  
おおむね2時間程度の準備を求める。  
<成績評価方法・基準>  
授業内での質疑応答を評価する(50%)。残りの50%は成果物を評価する。  
<テキスト>  
最初の授業で翻訳の対象とする英語の詩を配布する。  
<授業計画>  
イントロダクション 翻訳において注意すべきこと  
第2回  
詩の翻訳について 詩の翻訳に固有の問題の整理  
第3回  
翻訳の実際 1 著名な英詩の既存の日本語訳を数種類比較検討する  
第4回  
翻訳の実際 2 著名な英詩の既存の日本語訳を数種類比較検討する。特にシンタクスの違いに注目する。  
第5回  
翻訳の試み 1 比較的平易な詩を実際に訳し、お互いの結果を比較検討する。  
第6回  
翻訳の試み 2 比較的平易な詩を実際に訳し、お互いの結果を比較検討する。  
第7回  
翻訳の試み 3 比較的平易な詩を実際に訳し、お互いの結果を比較検討する。  
第8回  
論点整理 1 これまでの演習を通して浮き彫りになった問題点を整理する。  
第9回  
論点整理 2 これまでの演習を通して浮き彫りになった問題点を整理する。  
第10回  
解説 日本語・英語間の翻訳の問題と詩の翻訳の問題について解説する。  
第11回  
翻訳の試み 4 翻訳したい詩を選定し、翻訳するために必要となる読解・解釈を行う。  
第12回  
翻訳の試み 5 翻訳したい詩を選定し、翻訳するために必要となる読解・解釈を行う。  
第13回

翻訳の試み 6 翻訳したい詩を選定し、翻訳するために必要となる読解・解釈を行う。

第14回

翻訳の検討 一つの英詩を複数のスタイルで訳し、その効果の違いを検討する。

第15回

成果発表 自らの翻訳について、工夫を凝らした点などを発表する。

-----  
2022年度 前期

1単位

文化構造論ワークショップ

赤井 敏夫  
-----

<授業の方法>

対面授業

配布資料に関しては適宜その都度ドットキャンパスでの指示の中でリンクを示す。

<授業の目的>

この科目は、人間文化学研究科のDPに示す、「地域の人と文化について独創的な研究を進め、自らの研究成果を学界および社会に還元しようという意欲」を涵養することを目的とする。

映画から文化の特性を読み取る

各文化圏の民族映画には独自の文化特性が表されている。映画を単なる1ストーリーとして楽しむだけではなく、そこに表現されている文化特性を作品の多様な相から読み取り、異文化理解のためのテキストとしてとらえる視点を養う。

<到達目標>

1本の映像作品(映画)をキャラクター設定、ストーリー展開、映像表現など多様な相から分析し、そこに表出されている文化特性を理解できるようにする。

映画に表現されている特異性と普遍性がどのように融合しているかを理解し、自文化と異文化の相違点と共通点を確認できるようにする。

そこからさらに進んでグローバルな共同体の一員としての各文化圏の相対位置を確認し、異文化理解の基礎知識を身につける。

<授業の進め方>

担当教員によるレクチャーと受講者による研究発表、およびそれに対する全員による相互批評。

<授業時間外に必要な学修>

図書館やレンタルショップなどから得た作品を中心に積極的にインド映画を鑑賞し、その映像表現の様式に親しむ。(目安として1時間ほど)

<提出課題など>

発表のまとめ2回(チーム毎)、講義ノート2回(各人

)、レポート1回(各人)

<成績評価方法・基準>

チーム発表2回(30%)、全体ディスカッションの積極性(20%)、講義ノートの提出2回(30%)、レポート1回(20%)

<授業計画>

オリエンテーション 本演習の運営方法を説明する。あわせて次週に行う自己紹介のモデルを示し、そこで取り上げるべき映画の書誌的情報の提示の仕方を示す。

第2回

受講生による自己紹介 単なる自己紹介だけではなく、ここでは「自分が勧めるこの映画」と関係させて紹介を行う。紹介する映画の書誌学的情報や鑑賞ポイントなど、説得的なプレゼンテーションを行うことが求められる。

第3回

チーム編成と映画を「読み取る」鑑賞方法の学習#1  
受講生全員を4チームに分けて構成する。「読み取る」映画のサンプラーとしてインド映画の作品をとりあげ、前半60分は文化特性が表象されている特有の映像表現を確認してゆく。後半の30分はチーム毎に読み取れた特徴をディスカッションして記録に留める。

第4回

チーム編成と映画を「読み取る」鑑賞方法の学習#1  
受講生全員を4チームに分けて構成する。「読み取る」映画のサンプラーとしてインド映画の作品をとりあげ、前半60分は文化特性が表象されている特有の映像表現を確認してゆく。後半の30分はチーム毎に読み取れた特徴をディスカッションして記録に留める。

第5回

チーム編成と映画を「読み取る」鑑賞方法の学習#1  
受講生全員を4チームに分けて構成する。「読み取る」映画のサンプラーとしてインド映画の作品をとりあげ、前半60分は文化特性が表象されている特有の映像表現を確認してゆく。後半の30分はチーム毎に読み取れた特徴をディスカッションして記録に留める。

第6回

全体のディスカッション#1  
各チームから代表がチーム内の前3回のディスカッションの内容をまとめて発表し、全体で内容を吟味して深化する。担当者からの批評もふくめる。

第7回

全体のディスカッション#1  
各チームから代表がチーム内の前3回のディスカッションの内容をまとめて発表し、全体で内容を吟味して深化する。担当者からの批評もふくめる。

第8回

ミニ・レクチャーと問題点の調査#1 担当者から映画製作の背景もふくめたミニ・レクチャーを行う。その後ゼミ生はネット情報を中心にディスカッションの問題点となったポイントに関して調査を行う。

第9回

映画を「読み取る」鑑賞方法の学習#2 「読み取る」映画の第2のサンプラーとして別のインド映画の作品をとりあげる。運用方法は第3?5回に同じ。

第10回

映画を「読み取る」鑑賞方法の学習#2 「読み取る」映画の第2のサンプラーとして別のインド映画の作品をとりあげる。運用方法は第3?5回に同じ。

第11回

映画を「読み取る」鑑賞方法の学習#2 「読み取る」映画の第2のサンプラーとして別のインド映画の作品をとりあげる。運用方法は第3?5回に同じ。

第12回

全体のディスカッション#2

運用方法は第6?7回に同じだが、これまで学習した知識をもってより深い内容のディスカッションが求められる。

第13回

全体のディスカッション#2 運用方法は第6?7回に同じだが、これまで学習した知識をもってより深い内容のディスカッションが求められる。

第14回

ミニ・レクチャーと問題点の調査#2 演習で取り上げた映画と既知の映画との映像表現上での相違点を確認し、文化的特性の評価を行う。

第15回

総合批評への準備

演習で取り上げた映画と既知の映画との映像表現上での相違点を確認し、文化的特性の評価を行う。

-----  
2022年度 後期

1単位

歴史情報論ワークショップ

北村 厚  
-----

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

『史学概論』を読む

このワークショップでは、歴史学の理論に関する集大成ともいべき、遅塚忠躬『史学概論』を精読し、人間文化学研究所DPにある、専門領域における十分な知識・技能を蓄積し、それを学問上の研究課題や実社会の諸問題に対して的確に応用することができる能力を培う。

遅塚忠躬『史学概論』は、日本の歴史学における歴史理論書の金字塔である。フランス近代史の大家である遅塚氏は、近年拡散しあいまいになりつつある歴史学の理論について集大成的な概論を書き上げた。歴史学の学術的核心は「論理整合性」と「事実立脚性」にあるとする遅

塚は、歴史の事実認識を構築するための認識論を本論で展開している。本書を精読することによって歴史学の考え方を身に付け、実際の研究活動や身の回りの歴史に対する考え方に活用できるようになることが、このワークショップの目的である。

<到達目標>

1. 歴史学の方法を身に付け、自身の研究に応用することができる。
2. 事実の客観性とその問題点について思考し、議論することができる。

<授業のキーワード>

歴史学 史学概論 史料批判 客観性 因果関係

<授業の進め方>

毎週、担当者がレジュメを作成し、論点を考えて報告を行います。テキストはコピーを配布します。

<授業時間外に必要な学修>

予習と報告準備に3時間は必要です。

<成績評価方法・基準>

報告レジュメ、質疑応答、テキストに対する理解の深さなどを総合して成績を付けます。

<参考図書>

遅塚忠躬『史学概論』東京大学出版会、2010年

<授業計画>

ガイダンス 受講生の自己紹介と、テキストの配布と説明をします。

第2回

歴史学の成立要因 テキスト「はしがき」を精読し、歴史学の成立要件について考えます。

第3回

歴史学の目的 1 テキスト第1章「歴史学の目的」より、第1節「歴史学の目的の三分区」を精読し、議論します。

第4回

歴史学の目的 2 テキスト第1章「歴史学の目的」より、第2節「三様の歴史学の相違点と相互関係」を精読し、議論します。

第5回

歴史学の目的 3 テキスト第1章「歴史学の目的」より、第3節「歴史学の目的と効用」を精読し、議論します。

第6回

歴史学の対象とその認識 1 テキスト第2章「歴史学の対象とその認識」の第1節「人類の過去の文化」を精読します。

第7回

歴史学の対象とその認識 2 テキスト第2章「歴史学の対象とその認識」の第2節「事実についての予備的考察」を精読します。

第8回

歴史学の対象とその認識 3 テキスト第2章「歴史学の対象とその認識」の第3節「事実の種類とそれぞれの性質」を精読します。

第9回

歴史学の対象とその認識 4 テキスト第2章「歴史学の対象とその認識」の第4節「史料による事実の確認と復元」を精読します。

第10回

歴史学の対象とその認識 5 テキスト第2章「歴史学の対象とその認識」の第5節「事実認識についての学会の論議」を精読します。

第11回

歴史認識の基本的性格 1 テキスト第4章「歴史認識の基本的性格」の第1節「歴史学の主観性と客観性」を精読します。

第12回

歴史認識の基本的性格 2 テキスト第4章「歴史認識の基本的性格」の第2節「歴史認識の蓋然性と歴史の趨勢」を精読します。

第13回

歴史認識の基本的性格 3 テキスト第4章「歴史認識の基本的性格」の第3節「歴史における因果関係と因果的必然性」を精読します。

第14回

歴史認識の基本的性格 4 テキスト第4章「歴史認識の基本的性格」の第4節「歴史における偶然性と自由意志」を精読します。

第15回

歴史認識の基本的性格 5 テキスト第4章「歴史認識の基本的性格」の第5節「歴史における相互連関の円環構造」を精読します。